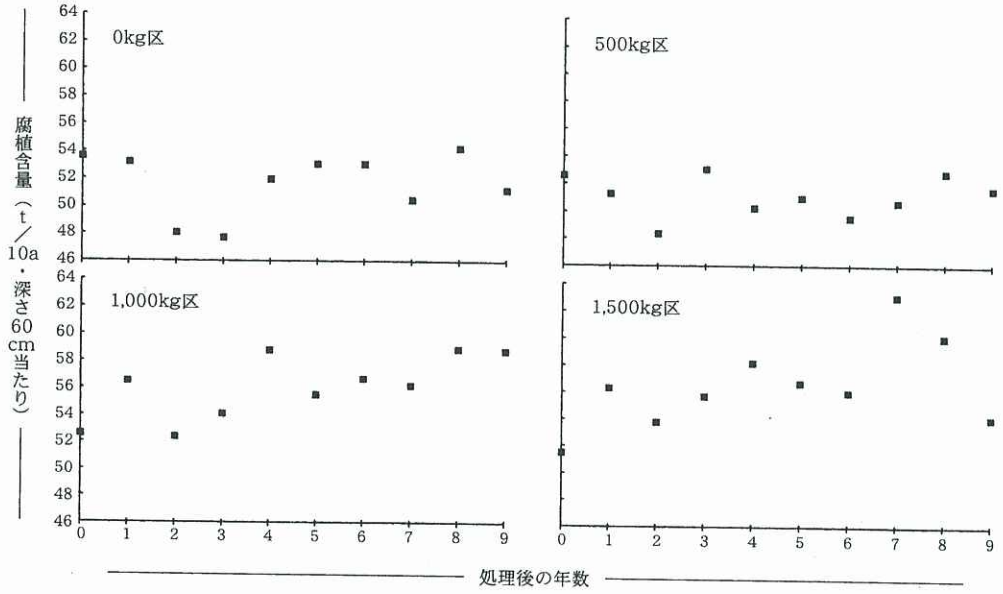
地力向上のための堆きゅう肥の施用量

研究のねらい

近年のリンゴ園の土壌管理を見ると、草生栽培とは言え、雑草草生が大部分で、管理とはほど遠いものになっており、最近の定期的な定点調査においても果樹園土壌の有機物含量は減少傾向にある。そこで、積極的に地力向上を図る上での堆きゅう肥施用量を見出すために、堆肥施用量と土壌有機物含量について検討する。

研究の成果

りんご試験場の火山灰土壌と沖積土壌を対象に、わい性台樹の樹冠下へ10ａ当たり０、500、1,000及び1,500kg相当量の稲わら石灰窒素堆肥を1979年から1988年まで毎年施用し、土壌の有機物含量（腐植含量）を経年的に測定した。その結果、両土壌とも、1,000kg以上の堆きゅう肥施用によって土壌中の有機物含量が経年的に増加した。このことから、積極的に地力の向上を図るためには毎年1,000kg以上の堆きゅう肥を施用する必要がある。



第１図　堆肥施用量と土壌の腐植含量の経年変化（りんご試ほ場）

発表資料

１．加藤　正ら（1986）．わい性リンゴ樹の土壌管理体系の確立．２．堆肥施用と土壌有機物量の経年変化．昭和62年度寒冷地果樹試験研究成績概要集（土壌肥料・流通利用）：３－４．

２．加藤　正（1988）．堆肥で地力を高めるための上手なやり方．昭和63年参観デー資料集（青森県りんご試験場マルス会編）：56－60.

３．加藤　正（2001）．わい性台利用樹の土壌管理法に関する研究．青森りんご試報 32：30－44.